

日本地球惑星科学連合 2013 年大会における WDS・DIAS セッションの開催について

村山泰啓

- 日本地球惑星科学連合（Japan Geoscience Union; JpGU）は、公益社団法人であり、地球惑星科学を構成するすべての分野・その関連分野をカバーする学術団体。
- 例年、5000～6000 人以上の科学者・学生が参加。3000 件以上の科学論文が発表される。
- 国内の旧 WDC やデータベース活動、科学情報活動も近年活発になってきている。
- WDS/WDC に関するセッションは過去 3 年間、ユニオンセッション（連合の代表的セッションとして 4～7 セッションが選ばれる）として開催。
- 2013 年大会では、WDS・DIAS それぞれがセッションを提案。これを統合してユニオンセッション（およびこれに付随する通常セッションとして）開催する（下記にセッション概要を示す）。

## セッション概要

セッションカテゴリー：ユニオン(U)

セッション ID：U-02

タイトル：Global Data Sciences in the Big Data Era

タイトル短縮名：Global Data Sciences in the Big Data Era

代表コンピーナ：

小池 俊雄（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授）

共同コンピーナ：

村山 泰啓（情報通信研究機構 統合データシステム研究開発室長）、

大石 雅寿（国立天文台天文データセンター センター長・准教授）

金尾 政紀（国立極地研究所 准教授）

喜連川 優（東京大学 生産技術研究所戦略情報融合国際研究センター長・教授）

柴崎 亮介（東京大学空間情報科学研究センター 教授）

篠原 育（宇宙航空研究開発機構／宇宙科学研究所 准教授）

豊田 英司（気象庁予報部数値予報課）

村田 健史（情報通信研究機構 統合データシステム研究開発室 統括）

谷田貝 亜紀代（京都大学生存圏研究所 特任准教授）

セッション種別：国際セッション

発表主要言語：英語

スコープ (英文) : In earth, planetary and space sciences, scientific findings and understanding of irreproducible phenomena like earth's climate change etc. cannot be validated with double-check of results by independent scientists which is essential elements of the modern science. Then, "data" is the only proof which scientists can show to the society to secure the scientific truth. The ICSU-WDS (World Data System) programme has started its international programme office (IPO) hosted in Japan targets world-scale data-sharing community and framework. New initiatives such as persistent digital identifiers of datasets and authors, as well as data citation are important as a new science infrastructure in this new era. Nowadays when decision-makers requires access to usable information on natural phenomena which impacts the society, joint efforts and possible collaboration, and furthermore fusion are required of advanced information science and technology together with earth and planetary science datasets, so targeted activities like DIAS are proceeding now. In this session, a wide range of data activities of not only earth and planetary sciences but also of social and economic fields are welcome to exchange and interact for the future global coordination of scientific data and information.

スコープ (和文) : 地球惑星科学においてはとくに、再現実験のできない気候変動など追試が不可能な現象の研究においては、データのみが科学者にとって科学的発見・知見の真正性を担保するために社会に示せる根拠となる。当連合にとっての重要性は論を待たないであろう。ICSUの国際学術事業 WDS (World Data System)では国際オフィスが日本に設置され、世界規模でのデータ共有コミュニティ形成、分散データ共有のしくみづくり等を目指している。データや著者等の恒久的識別子(ID)付与、data citationなども新たな時代の学術の基盤として注視が必要である。一方、洪水、津波などの自然現象についても、政策的意思決定に必要な情報が社会から求められる現在、多様・非均質かつ大容量のデータから信頼できる情報を取捨選択し分野横断的に活用するために、最先端の情報科学技術と地球惑星科学データとの連携が重要な課題となり、例えば DIAS 等の取り組みが進められている。本セッションでは地球惑星科学、社会経済等幅広い範囲のデータを扱う活動について情報交換をはかり、日本が将来的に軸となるような国際連携へむけた意見交換の場としたい。

発表方法希望 : 口頭および (または) ポスターセッション

招待講演者 : (TBD)

セッションカテゴリー：ユニオン(U)

セッションID：M-IS02

タイトル：Global Data Sciences in the Big Data Era

タイトル短縮名：Global Data Sciences in the Big Data Era

代表コンピーナ：

村山 泰啓（情報通信研究機構 統合データシステム研究開発室長）

共同コンピーナ：

小池 俊雄（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授）、

大石 雅寿（国立天文台天文データセンター センター長・准教授）

金尾 政紀（国立極地研究所 准教授）

喜連川 優（東京大学 生産技術研究所戦略情報融合国際研究センター長・教授）

柴崎 亮介（東京大学空間情報科学研究センター 教授）

篠原 育（宇宙航空研究開発機構／宇宙科学研究所 准教授）

豊田 英司（気象庁予報部数値予報課）

村田 健史（情報通信研究機構 統合データシステム研究開発室 統括）

谷田貝 亜紀代（京都大学生存圏研究所 特任准教授）

セッション種別：国際セッション

発表主要言語：英語

スコープ（英文）：In earth, planetary and space sciences, scientific findings and understanding of irreproducible phenomena like earth's climate change etc. cannot be validated with double-check of results by independent scientists which is essential elements of the modern science. Then, "data" is the only proof which scientists can show to the society to secure the scientific truth. The ICSU-WDS (World Data System) programme has started its international programme office (IPO) hosted in Japan targets world-scale data-sharing community and framework. New initiatives such as persistent digital identifiers of datasets and authors, as well as data citation are important as a new science infrastructure in this new era. Nowadays when decision-makers requires access to usable information on natural phenomena which impacts the society, joint efforts and possible collaboration, and furthermore fusion are required of advanced information science and technology together with earth and planetary science datasets, so targeted activities like DIAS are proceeding now. In this session, a wide range of data activities of not only earth and planetary sciences but also of social and economic fields are welcome to exchange and interact for the future global coordination of scientific data and information.

スコープ（和文）：地球惑星科学においてはとくに、再現実験のできない気候変動など追試が不可能な現象の研究においては、データのみが科学者にとって科学的発見・知見の真正性を担保するために社会に示せる根拠となる。当連合にとっての重要性は論を待たないであろう。ICSUの国際学術事業WDS (World Data System)では国際オフィスが日本に設置され、世界規模でのデータ共有コミュニティ形成、分散データ共有のしくみづくり等を目指している。データや著者等の恒久的識別子(ID)付与、**data citation**なども新たな時代の学術の基盤として注視が必要である。一方、洪水、津波などの自然現象についても、政策的意思決定に必要な情報が社会から求められる現在、多様・非均質かつ大容量のデータから信頼できる情報を取捨選択し分野横断的に活用するために、最先端の情報科学技術と地球惑星科学データとの連携が重要な課題となり、例えばDIAS等の取り組みが進められている。本セッションでは地球惑星科学、社会経済等幅広い範囲のデータを扱う活動について情報交換をはかり、日本が将来的に軸となるような国際連携へむけた意見交換の場としたい。

発表方法希望：口頭および（または）ポスターセッション

招待講演者：(TBD)